

熊谷市消防本部の沿革

昭和23年	3月	消防組織法の施行により熊谷市消防本部、消防署を設置 熊谷市長 鴨田宗一氏、消防長に就任
昭和30年	3月	消防本部庁舎を宮町2丁目137番地(現在の中央消防署)に 竣工
昭和31年	3月	消防長に青木勝之助氏就任 玉井分所(現在の玉井分署)を開所
昭和33年	5月	熊谷市長に栗原正一氏就任
昭和36年	8月	南分所(現在の荒川分署)を開所
昭和37年	5月	熊谷市長に黒田海之助氏就任
昭和42年	12月	妻沼町消防本部、消防署を設置
昭和43年	3月	消防長に神尾貞治氏就任
昭和47年	4月	熊谷市、妻沼町、大里村、江南村の1市1町2村により 熊谷地区消防組合を設立発足し、管理者に熊谷市長 黒田海之助氏就任 署所 1本部 1署 1分署 2出張所 車両 普通消防ポンプ自動車3台、水槽付消防ポンプ自動車 5台、屈折はしご車1台、救急車3台、指令車1台、 広報車1台、作業車1台、救助艇1艇 職員 113名(定員151名) 消防長に吉野利男氏就任
昭和47年	6月	職員を126名に増員
昭和47年	11月	妻沼分署を妻沼消防署に昇格
昭和47年	12月	消防本部に火災等における指揮命令を迅速かつ適切に周 知させるため、無線付指令車を配置
昭和48年	1月	職員を130名に増員 大里消防団北分団車庫竣工、同団北分団に消防車を配置
昭和48年	2月	南部地域の消防体制完備のため、大里出張所、江南出張 所を開所、両出張所に水槽付消防ポンプ自動車1台配置、 職員各15名

昭和48年	3月	妻沼消防団男沼分団の普通消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防団大幡分団車庫竣工 熊谷消防団吉岡分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和48年	4月	職員を133名に増員
昭和48年	5月	職員を138名に増員
昭和48年	8月	予防査察、火災警戒パトロール、水利調査及び火災調査用としてパトロール車(軽四輪)2台を消防本部に配置
昭和48年	12月	熊谷消防団石原分団車庫竣工
昭和49年	3月	職員を150名に増員 熊谷消防団久下分団車庫竣工、同分団の普通消防ポンプ自動車を更新 科学の発達に伴い複雑多岐にわたる災害に対処するため化学車を熊谷消防署に配置 熊谷消防団石原分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和49年	5月	消防本部、消防署の組織改革を行い、責任体制を明確化し、本部に総務課3係、予防課2係、消防署に副署長を置き、警防係制に改革
昭和49年	11月	大型地震防災計画の一環として小型動力ポンプ5台を購入し各署所に配置(熊谷署、荒川、玉井、大里、江南出張所) 熊谷消防団成田分団及び江南消防団南分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和49年	12月	高層建築物災害に対処するため35m級はしご付消防車を熊谷消防署に配置 増加する救急業務の万全を期するため、救急車(3B型)を熊谷消防署に配置 職員定数を166名に改正
昭和50年	2月	江南消防団南分団車庫竣工
昭和50年	3月	熊谷消防団成田分団車庫竣工
昭和50年	4月	消防長吉野利男氏 埼玉県消防長会会長に就任
昭和50年	6月	予防査察、火災警戒パトロール、水利調査及び火災調査用としてパトロール車(軽四輪)2台を消防本部に配置

昭和50年10月	妻沼消防署に救急車(2B型)を配置
昭和50年11月	熊谷消防署に救急車(2B型)を配置 (埼玉県農業共済連寄贈)
	妻沼消防団妻沼分団第1部車庫竣工
昭和50年12月	火災等における指揮命令を迅速かつ適切に周知させるため、無線付指令車を妻沼消防署に配置
昭和51年 1月	熊谷消防署に水槽付消防ポンプ自動車を配置
昭和51年 3月	熊谷消防団佐谷田分団の普通消防ポンプ自動車を更新 交通事故、労働災害、中高層建築物等に伴う複雑多様化による各種災害に万全を期するため、消防ポンプ付救助工作車を熊谷消防署に配置
昭和51年 7月	職員を151名に増員
昭和51年 9月	火災問合せ専門着信電話装置(3回線)を熊谷消防署に設置
昭和51年10月	消防本部に防災無線電話を設置
昭和52年 2月	大里消防団南分団の普通消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防団肥塚分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和52年 3月	熊谷消防団別府分団車庫竣工 建築物の中高層化によるビル火災や爆発事故等複雑多様化による災害からの人命救助等に対処するため、庁舎予定地に訓練棟(3棟)を設置
昭和52年 5月	火災問合せ専門着信電話装置(2回線)増設
昭和52年 8月	予防査察、火災警戒パトロール、水利調査及び火災調査用としてパトロール車(軽四輪)2台を熊谷消防署に配置
昭和52年12月	大型地震防災計画の一環として小型動力ポンプを妻沼消防署に配置
昭和53年 2月	消防本部に広報車(普通車)を配置 妻沼消防署の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和53年 3月	熊谷消防団星宮分団の普通消防ポンプ自動車を更新 大里消防団中央分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和53年 4月	職員を153名に増員
昭和53年 7月	熊谷消防団上石分団車庫竣工

昭和54年	1月	熊谷消防団太井分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和54年	2月	熊谷消防署玉井出張所の水槽付消防ポンプ自動車を更新
昭和54年	5月	火災問合せ専門着信電話装置(5回線)を増設
昭和54年	8月	熊谷消防団三尻分団車庫竣工
昭和54年	10月	熊谷消防団筑波分団車庫竣工
昭和54年	12月	市街地特有の密集建物火災に対処するために、動く貯水槽として、また、大震災時における住民への飲料給水車として小型動力ポンプ付水槽車(7,300ℓ)を熊谷消防署に配置
昭和55年	1月	熊谷消防署の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和55年	3月	熊谷消防団大幡分団の普通消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防団太井分団車庫竣工 妻沼消防署の水槽付消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防団筑波分団の水槽付消防ポンプ自動車を更新 庁舎予定地に高圧ガス容器貯蔵庫を設置
昭和55年	5月	職員を159名に増員
昭和55年	7月	消防本部に作業車(車両修理用工具一式積載)を配置
昭和55年	8月	熊谷消防団団本部分団にワゴン型普通車を配置
昭和55年	10月	新庁舎建設設計業務を熊谷市建築課に委託
昭和56年	1月	熊谷消防団各分団に消火及び人命救助活動に使用するため、空気呼吸器8型を配置
昭和56年	2月	熊谷消防署の救急車(3B型)を更新
昭和56年	3月	庁舎建設予定地に書類倉庫2棟を建設 熊谷消防団大麻生分団の普通消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防団玉井分団の普通消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防団中条分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和57年	3月	熊谷消防署荒川出張所の水槽付消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防団奈良分団車庫竣工
昭和57年	4月	職員を164名に増員
昭和57年	5月	熊谷地区消防組管理者に熊谷市長増田敏男氏就任
昭和57年	6月	熊谷地区消防本部消防長に門倉恒一氏就任
昭和57年	8月	熊谷地区消防組合庁舎建設着工

昭和57年11月	江南消防団中央分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和57年12月	職員定数を188名に改正
昭和58年2月	熊谷消防署に救急車(2B型)を配置
昭和58年3月	熊谷消防団久下分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和58年4月	職員を172名に増員
昭和58年6月	熊谷地区消防組合庁舎竣工
昭和58年8月	熊谷地区消防組合新庁舎業務開始
	消防本部、消防署の組織改革を行い、本部に総務課2係、 予防課2係、警防課3係を置き、旧本部庁舎を熊谷消防 署中央分署として開署
昭和58年9月	消防救急指令装置B型を通信指令室に配置
	119番回線容量48回線、実装8回線
	指令回線 容量48回線、実装6回線
	無線設備 基地局4 市町村波 150.31MHZ
	県内波 148.29MHZ
	全国波 150.73MHZ
	救急(復信)波 147.50MHZ
	143.50MHZ
	総合表示盤 ワンタッチ回路 100か所
	電子式交換機 局線容量 24回線、実装7回線
	内線容量 96回線、実装43回線
	地図検索装置を通信指令室に配置
	熊谷消防署及び大里出張所に救助用ボートを配置
昭和58年11月	妻沼消防団長井分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和59年2月	熊谷消防団中央分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和59年3月	熊谷消防署に小型動力ポンプ付水槽車(5,000ℓ)を配置
	熊谷消防団中条分団車庫及び佐谷田分団車庫竣工
昭和59年4月	職員を177名に増員
昭和59年6月	江南出張所に救助用ボートを配置
昭和59年7月	荒川出張所に折たたみ式アルミボート(船外機付)配置
	熊谷消防署の査察車(軽四輪)2台を更新
昭和59年10月	熊谷消防署に広報装置付四輪駆動車を配置(ホテルサン

		ルート熊谷寄贈)
		熊谷消防署に普通消防ポンプ自動車を配置
		江南消防団北分団の普通消防ポンプ自動車を更新
		熊谷消防署にボートトレーラーを配置
昭和60年	3月	熊谷消防団荒川分団の普通消防ポンプ自動車を更新
		熊谷消防署の救急車(2B型)を更新
		妻沼消防団妻沼分団第1部及び太田分団の普通消防ポンプ自動車を更新
		熊谷消防団肥塚分団車庫竣工
昭和60年	4月	熊谷地区消防本部消防長に中村和夫氏就任
昭和60年	5月	熊谷消防署に広報装置付普通車を配置(株式会社八木橋寄贈)
昭和60年	7月	熊谷消防署大里出張所及び江南出張所に査察車(軽四輪)を配置
昭和60年	11月	組合構成市町村の江南村、町制を施行
昭和60年	12月	熊谷消防署にドクターズカーを配置(日本赤十字社埼玉県支部 無償譲渡)
昭和61年	3月	熊谷消防署中央分署の救急車(2B型)を更新
		熊谷消防署大里出張所及び江南出張所の水槽付消防ポンプ自動車を更新
		妻沼消防団男沼分団第1部及び秦分団の普通消防ポンプ自動車を更新
		江南消防団北分団車庫竣工
昭和61年	7月	職員を178名に増員
昭和61年	8月	熊谷地区消防組合管理者に熊谷市長小林一夫氏就任
昭和61年	10月	熊谷消防団上石分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和62年	4月	職員を179名に増員
昭和62年	8月	熊谷消防署玉井出張所及び荒川出張所の査察車(軽四輪)を更新
昭和62年	10月	熊谷消防団三尻分団の普通消防ポンプ自動車を更新
昭和63年	3月	熊谷消防署江南出張所及び大里出張所に救急車(2B型)を配置

		(江南救急車シャシー日本損害保険協会寄贈)
昭和63年	4月	機構改革により中央分署を中央消防署に、荒川、玉井、江南、大里の各出張所を分署に改変 熊谷地区消防本部消防長に多田浩氏就任
昭和63年	8月	消防本部及び熊谷消防署の査察車(軽四輪)各1台を更新
昭和63年	10月	熊谷消防団奈良、別府分団の普通消防ポンプ自動車を更新 大里消防団北分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成	元年 1月	熊谷消防署の普通消防ポンプ自動車を更新
平成	元年 2月	中央消防署の水槽付消防ポンプ自動車を更新
平成	元年 3月	妻沼消防署の救急車を更新 妻沼消防団太田分団車庫竣工
平成	元年 4月	熊谷地区消防組合章を制定
平成	元年 7月	消防本部、中央及び妻沼消防署の査察車(軽四輪)各1台を更新
平成	元年 8月	熊谷消防署の中型輸送車を更新
平成	元年 10月	熊谷消防団吉岡分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成	2年 2月	熊谷消防署の救助工作車を更新
平成	2年 3月	熊谷消防団団本部分団待機室竣工 妻沼消防団長井分団車庫及び男沼分団車庫竣工 江南消防団南分団車庫竣工、同分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成	2年 6月	中央消防署の指令車を更新
平成	2年 8月	熊谷消防署の資機材運搬車を更新
平成	2年 10月	妻沼消防団妻沼分団第2部の普通消防ポンプ自動車を更新
平成	2年 11月	妻沼消防団秦分団車庫竣工
平成	3年 3月	妻沼消防団妻沼分団第2部車庫竣工 妻沼消防団男沼分団第2部の普通消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防団石原分団の普通消防ポンプ自動車を更新 妻沼消防署庁舎及び熊谷消防署玉井分署庁舎竣工
平成	3年 4月	熊谷消防署玉井分署に救急車(2B型)を配置 職員を186名に増員 職員定数を214名に改正

平成	4年	2月	熊谷消防団吉岡分団車庫竣工
平成	4年	3月	熊谷消防団成田分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成	4年	4月	職員を 196 名に増員
平成	4年	10月	熊谷消防署のスノーケル車を 35m のはしご付消防車に更新し、玉井分署に配置
平成	4年	12月	熊谷消防署玉井分署の水槽付消防ポンプ自動車を更新
平成	5年	1月	熊谷消防団佐谷田分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成	5年	4月	職員を 203 名に増員
平成	5年	8月	妻沼消防署の指令車を更新
平成	5年	9月	熊谷消防団肥塚分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成	5年	11月	熊谷消防署玉井分署に普通消防ポンプ自動車を配置
平成	6年	1月	妻沼消防署の水槽付消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防署の化学車を更新し、玉井分署に配置
平成	6年	2月	熊谷消防署の救急車(2B型)を高規格救急車に更新 (三国コカ・コーラボトリング株式会社寄贈)
平成	6年	4月	熊谷地区消防本部消防長に橋本澄男氏就任 職員を 212 名に増員 職員定数を 247 名に改正
平成	6年	8月	熊谷消防署の指令車を更新
平成	6年	9月	熊谷消防署に赤バイ 2 台を配置(江田組株式会社寄贈)
平成	6年	10月	中央消防署の救急車を高規格救急車に更新
平成	6年	11月	中央消防署の小型動力ポンプ付水槽車を水槽付消防ポンプ自動車に更新
平成	6年	12月	中央消防署のはしご付消防自動車(35m)及び普通消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防団筑波分団の水槽付消防ポンプ自動車を更新
平成	7年	1月	熊谷消防団大幡分団及び星宮分団の普通消防ポンプ自動車を更新 大里消防団中央分団及び南分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成	7年	4月	職員を 222 名に増員
平成	7年	6月	消防本部の査察車(軽四輪)3 台、熊谷消防署広報車及び

			妻沼消防署の救助用ボートを更新
平成	7年	7月	消防本部の装備車を更新
平成	7年	11月	熊谷消防団太井分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成	8年	2月	熊谷消防署のドクターズカー及び中央消防署の救急車 (2B型)を更新
平成	8年	3月	中央消防署荒川分署の水槽付消防ポンプ自動車を更新 大里消防団 竿頭綬を受章
平成	8年	4月	熊谷地区消防本部消防長に堀越満氏就任 本部に通信指令課を設置 職員を233名に増員
平成	8年	9月	熊谷消防署の広報車1台、熊谷消防署江南分署及び中央 消防署大里分署の査察車各1台を更新
平成	8年	10月	消防職員委員会を設置 アポロキャップ型略帽を採用
平成	9年	1月	熊谷消防団玉井分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成	9年	2月	熊谷消防団大麻生分団及び中条分団の普通消防ポンプ自 動車を更新 熊谷消防署江南分署及び中央消防署大里分署の救急車 (2B型)を高規格救急車に更新 熊谷消防署玉井分署に救助工作車を配置
平成	9年	3月	大里消防団北分団車庫竣工 消防緊急通信指令施設Ⅱ型を通信指令課に配置 119番受付回線 容量50回線、実装21回線 指令回線 容量40回線、実装7回線 無線設備 基地局1局(12装置) 市町村波 150.31MHZ 県内波 148.29MHZ 全国波① 150.73MHZ " ② 148.75MHZ " ③ 154.15MHZ 救急(復信)波 147.50MHZ 143.50MHZ

デジタル交換機

局線容量 16 回線、実装 9 回線

内線容量 72 回線、実装 68 回線

平成 9 年 4 月	職員を 244 名に増員
平成 10 年 2 月	妻沼消防団妻沼分団第 1 部車庫竣工 熊谷消防団久下分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成 10 年 3 月	妻沼消防署の救急車(2B 型)を高規格救急車に更新
平成 10 年 4 月	携帯電話からの 119 番通報受信転送システム開始
平成 10 年 9 月	熊谷消防署玉井分署及び中央消防署荒川分署の査察車各 1 台を更新
平成 11 年 1 月	熊谷消防団中央分団及び江南消防団中央分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成 11 年 2 月	妻沼消防署の普通消防ポンプ自動車を更新
平成 11 年 3 月	江南消防団 竿頭綬を受章
平成 11 年 4 月	熊谷地区消防本部消防長に山川幸男氏就任
平成 11 年 8 月	熊谷消防署の中型輸送車を更新
平成 11 年 10 月	消防本部に 8 人乗りワゴン車を配置(故廣田雪枝氏 寄贈)
平成 12 年 2 月	熊谷消防署玉井分署の救急車(2B 型)を高規格救急車に更新 熊谷消防署の小型動力ポンプ付水槽車を水槽付消防ポンプ自動車に更新
平成 12 年 5 月	熊谷消防署江南分署及び中央消防署大里分署の水槽付消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防団荒川分団、妻沼消防団長井分団及び江南消防団北分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成 12 年 8 月	消防本部の査察車を更新
平成 12 年 10 月	熊谷消防署の資機材運搬車を更新 中央消防署及び妻沼消防署の査察車を更新
平成 13 年 4 月	職員を 245 名に増員
平成 13 年 6 月	熊谷消防団上石分団、妻沼消防団妻沼分団第 1 部及び太田分団の普通消防ポンプ自動車を更新

平成13年10月	熊谷地区消防音楽隊発足
平成13年11月	中央消防署指令車を更新
平成14年 4月	組合構成市町村の大里村、町制を施行
平成14年 8月	熊谷地区消防組合管理者に熊谷市長富岡清氏就任
平成14年10月	中央消防署の高規格救急車を災害対応特殊救急自動車に更新
平成15年 1月	熊谷消防団三尻分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成15年 2月	妻沼消防団秦分団及び男沼分団第1部の普通消防ポンプ自動車を更新
平成15年 4月	熊谷地区消防本部消防長に福島正美氏就任
平成15年 7月	熊谷消防署の高規格救急自動車を更新
平成15年10月	熊谷消防団奈良分団、別府分団及び大里消防団北分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成15年11月	熊谷消防署の普通消防ポンプ自動車を災害対応特殊消防ポンプ自動車に更新
平成16年10月	新潟県中越地震に緊急消防援助隊埼玉県隊として出動
平成17年 3月	中央消防署の水槽付消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防団吉岡分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成17年 4月	熊谷地区消防本部消防長に中島裕一氏就任 熊谷消防署に指揮隊を設置
平成17年 9月	江南消防団南分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成17年10月	組合構成市町の熊谷市、大里町、妻沼町が合併(廃置分合)により新熊谷市誕生 熊谷消防署の救助工作車を更新
平成18年10月	警防課に指揮隊車を配置
平成18年11月	熊谷消防団石原分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成19年 2月	組合構成市町(熊谷市、江南町)の廃置分合により熊谷地区消防組合が解散 熊谷市消防本部並びに熊谷消防署、熊谷消防署玉井分署、熊谷消防署江南分署、中央消防署、中央消防署荒川分署、中央消防署大里分署及び妻沼消防署を設置

		職員定数 247 名
		消防長に中島裕一氏就任
		熊谷消防団及び江南消防団を統合し、熊谷市消防団を設置
		団員定数 513 名
平成 20 年	1 月	中央消防署大里分署、妻沼消防署の高規格救急自動車を更新 熊谷市消防団成田分団、佐谷田分団、弥藤吾分団、小島分団 の普通消防ポンプ自動車を更新
平成 20 年	2 月	熊谷消防署玉井分署の高規格救急自動車を更新
平成 20 年	3 月	予防課、警防課の査察車を更新
平成 20 年	4 月	熊谷市消防本部消防長に松葉一三氏就任 職員を 246 名に増員 団員定数を 528 名に改正 女性消防団員を 17 名採用
平成 20 年	9 月	水難救助に対応するため妻沼消防署に水上バイクを配置
平成 20 年	10 月	中央消防署の救急自動車(2B 型)を高規格救急自動車に更新 熊谷市消防団本部女性小隊車両(可搬ポンプ付)を配置
平成 20 年	12 月	熊谷消防署玉井分署の普通消防ポンプ自動車を更新
平成 21 年	1 月	熊谷消防署江南分署の高規格救急自動車を更新 消防音楽隊第 1 回定期演奏会を開催
平成 21 年	3 月	消防本部の指令車を更新 警防課の査察車を更新し、装備車を多目的車として更新 熊谷市消防団肥塚分団の普通消防ポンプ自動車を更新 指令課に高機能消防指令センターを更新整備
		主な装置
		・ メール 119 番・FAX119 番・駆け込み 119 番受付装置
		・ 発信地表示システム
		・ 災害情報表示装置
		・ 消防情報支援システム
		・ 車両動態位置管理装置
		・ 自動出動指定装置
		・ E メール災害情報配信システム
		・ EPV システム

平成21年10月	中央消防署及び妻沼消防署の水槽付消防ポンプ自動車を更新
平成21年12月	中央消防署の高規格救急自動車を更新 中央消防署新庁舎の基本設計を実施
平成22年 1月	中央消防署新庁舎建設予定地の地質調査を実施
平成22年 2月	熊谷市筑波分団の水槽付消防ポンプ自動車を普通消防ポンプ自動車に更新 熊谷市大里中央分団及び大里南分団の普通消防ポンプ自動車を更新 消防総務課に研修車（天然ガス車）を配置 消防音楽隊第2回定期演奏会を開催
平成22年 3月	消防本部の空気ボンベ充填庫整備
平成22年 4月	熊谷市消防本部消防長に新井義一氏就任 職員を247名に増員
平成23年 2月	消防音楽隊第3回定期演奏会を開催 熊谷消防署の高規格救急自動車を更新
平成23年 3月	熊谷消防署玉井分署のはしご付消防自動車を先端屈折式はしご車（30m）に更新 中央消防署荒川分署の水槽付消防ポンプ自動車を更新 熊谷市消防団大幡分団、星宮分団、太井分団の普通消防ポンプ自動車を更新 熊谷消防署に支援車を配置（総務省消防庁貸与） 東日本大震災に緊急消防援助隊埼玉県隊として出動
平成23年 4月	熊谷市消防本部消防長に須賀忠氏就任
平成23年10月	行田市と消防本部指令センターで消防通信指令事務の共同運用を開始
平成23年12月	熊谷市消防団玉井分団の普通消防ポンプ自動車を更新
平成24年 2月	熊谷消防署の指令車を更新 消防音楽隊第4回定期演奏会 発足10周年記念コンサート開催 熊谷消防署玉井分署の救助工作車を更新
平成24年 3月	熊谷市消防団大麻生分団及び中条分団の普通消防ポンプ自動車を更新